

「八つのほこり」

プログラムのねらい

- 「八つのほこり」の説き分けについて考える
- 何がほこりなのかを理解する
- 胸の掃除として日常生活でひのきしんを実行するよう呼びかける

プログラムの構成

			時間配分
《導入（起）》	《おしゃべりタイム》	自己紹介	
		あなたの夢はなんですか	10 分
	《本読み》	八つのほこりの説き分け	5 分
《気づき（承）》	《おしゃべりタイム》	夢って欲なのかな	20 分
		全体発表	10 分
		《おはなし》	ほこりって何だろう
《学習（転）》	《演習》	あなたの八つのほこり度	5 分
	《本読み》	プリント	5 分
	《おしゃべりタイム》	あなたの八つのほこり度	20 分
《結び（結）》	《おはなし》	胸の掃除 ひのきしん	20 分
	《おしゃべりタイム》	講座のふりかえり	20 分
			（2時間 10 分）

※開会、閉会、つなぎの司会時間を含まないプログラム正味の時間
各項目の時間は目安です。当日の流れ、実情に応じて調整してください

準備物品

- テキスト「八つのほこり」の説き分け（布教二課にて受渡し）
- 自己紹介シート（受講者資料 コピーして使用）
- テーマシート「あなたの八つのほこり度」（ " ）
- プリント「逸話篇一三〇 小さな埃は」（ " ）
- ふりかえりシート（ " ）

プログラム進行表



総合司会コメント



講師のお話



本読み













おしゃべりタイム









演習

時間	項目	プログラム	進め方とポイント	方向性・ねらい
		開会 親神様、教祖、祖霊様遥拝 オリエンテーション 講師・スタッフ紹介 講座のねらい 等	○受講者とスタッフで作 り上げる講座である ので協力を呼びか ける。 ※手短かに、要領よく 説明、ポイントをあ らかじめメモをし ておくとよい。	
		今日は「八つのほこり」について考えてみましょう。 それではまず自己紹介シートに記入してください。 ひとりひとり記入が終わりましたら、そのシートをもとに班のメンバーで自己紹介 をしていただきます。 それではよろしくお願いします。		
10分		〈おしゃべりタイム〉 ・自己紹介・あなたの夢は何です か	○自己紹介シートを使 用する。	
		ありがとうございます。 皆さんどんな夢がありましたか。 メンバーの夢や望んでいるものがわかったと思います。 それでは班のメンバーに「八つのほこり」の説き分けを配布してください。 班ごとに声に出して読んでみましょう。 (「おいしい」からの八つのほこりの説き分けを、ひとりずつ順番に、音読してみ てください)		

5分		<p>〈本読み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「八つのほこり」の説き分け 	<ul style="list-style-type: none"> ○班ごとに、ひとりずつ順番に声を出して読みます。 ○携帯版の説き分けを利用する。 ○通常版を使用する場合、通常版には八つのほこりの説き分けの前に説明文が7行あるので、その7行はみんなで読み、8行目の「おいしい」からひとりずつ読むようにする。 <p>※班の中に老眼などで読むことが難しい人がいる場合、班のメンバー全員で読んでも可。</p>	
		<p>ほこりの心づかいについて、ポイントはわかりただけかと思います。それではここで、みんなで考えてみたいと思います。</p> <p>先ほど自己紹介で語っていただいた、夢やほしいもの、これらは「ほしい」や「よく」などのほこりにならないのでしょうか。</p> <p>夢やほしいものを思う気持ちのうち、ほこりになるなあと思う心づかいと、これは親神様はお許しくださっている心づかいだと思えるものごとを、皆さんで話し合ってみてください。</p>		
20分		<p>〈おしゃべりタイム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢って欲なのかな 		
		<p>各班、いろいろな意見が出たと思います。ここで、ほこりではない、親神様がお許しくださる心づかいだと思われるものを紹介していただきたいと思います。</p> <p>それでは A 班ではどうでしたか…。</p>		
10分		<p>〈全体発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢って欲なのかな 	<ul style="list-style-type: none"> ○各班の意見を班別司会者に聞く。 ○できるだけ前の班と重複する意見は省いてもらって、具体的な例を挙げてもらうようにする。 	

		<p>ありがとうございました。いろいろな意見が出ました。 ほこりの心づかいになるものと、ならないもの、どこで分かれるのでしょうか。 ここで講師より、具体的にもう少し詳しく八つのほこりについて、お話をさせていただきます。</p>	
15分		<p>〈おはなし〉 ・ほこりって何だろう</p>	<p>○直前のおしゃべりタイムで、受講者は、一口に「ほしい」と言っても、ほこりの心づかいになるものとならないものがあることに気づいている。 ○ここで、具体的にほこりの心づかいとは何なのかを説明する。</p>
		<p>それでは、班別司会者の方に今から用紙を配ってまいります。 用紙には八つのほこりについて5つのメモリが記されています。 自分の日頃の心づかいをふりかえってみて、自分の八つのほこり度をチェックしてみてください。</p>	
5分		<p>〈演習〉 ・あなたの八つのほこり度</p>	<p>○自己チェックに困る場合は、携帯版の八つのほこりを見ながら自己チェックをするように促す。</p>
		<p>さあ、どんな八角形ができあがったのでしょうか。その図形が小さければ小さいほど、ほこりの心づかいが少ないと言えると思います。 しかしあくまでも自己診断です。ここで、教祖の逸話を講師といっしょに読んで、考えてみましょう。</p>	
5分		<p>〈本読み〉 ・プリント 教祖伝逸話篇 「一三〇 小さな埃は」</p>	<p>○講師に合わせて、全体で声を出して読みます。</p>
		<p>教祖のお話から、ほこりは知らないうちにも積んでしまっているものだと改めて思いました。 ここで先ほど皆さんが作成した八つのほこり度チェック表を元に、みんなで自分の心づかいについて感じたことを話し合ってみましょう。</p>	

20分		<p>〈おしゃべりタイム〉 ・あなたの八つのほこり度</p>		
		<p>ありがとうございました。 それでは、講師からまとめのお話をさせていただきます。</p>		
20分		<p>〈まとめのおはなし〉 ・ほこりの掃除ひのきしん ① ほこりの掃除=胸の掃除 ② 神がほうき ③ ひのきしんのありがたさ</p>	<p>○胸の掃除をしなければどうなるかを説明して、胸の掃除の必要性を説明する。 ○続いて、掃除の具体的な方法を説明する。比較的日常的に取り組みやすい「ひのきしん」を勧める。</p>	
		<p>今日の講座をふりかえって、今の気持ちを率直に書いてみてください。 このふりかえりシートはご提出いただくものではないので、お気軽に書いて下さい。 みんなが書き終えたら班で発表してください。 項目ごとに一回り順番に発表してください。 全部済んだら今日の感想や気持ちを自由に話してください。</p>		
20分		<p>〈おしゃべりタイム〉 ・講座のふりかえり</p>	<p>① ふりかえりシートを配ります。 ② 各自、記入してもらいます。 ③ 記入ができたら班内でひとりずつ順番に発表してもらいます。 ④ 自由に話してもらいます。</p>	

		<p>本日はご参加いただきましてありがとうございました。</p> <p>(次回の参加案内があれば渡す)</p> <p>最後に一つお知らせがあります。今日、皆さんと共に勉強させていただいた内容以外にも、もっとお道の教理についてまなびたいという方のために、おちばでは「三日講習会」というものが開催されています。詳しくは、所属の会長さんにご相談ください。</p> <p>本日は、これで終了いたします。ありがとうございました。</p>		
		<p>閉会</p> <p>親神様、教祖、祖霊様遥拝</p>		

《自己紹介シート》

・私は（ ）から来ました

（ ）です。

・私の夢（今抱いている夢・昔抱いていた夢）は

（ ）

です。

・私が今一番欲しいものは

（ ）

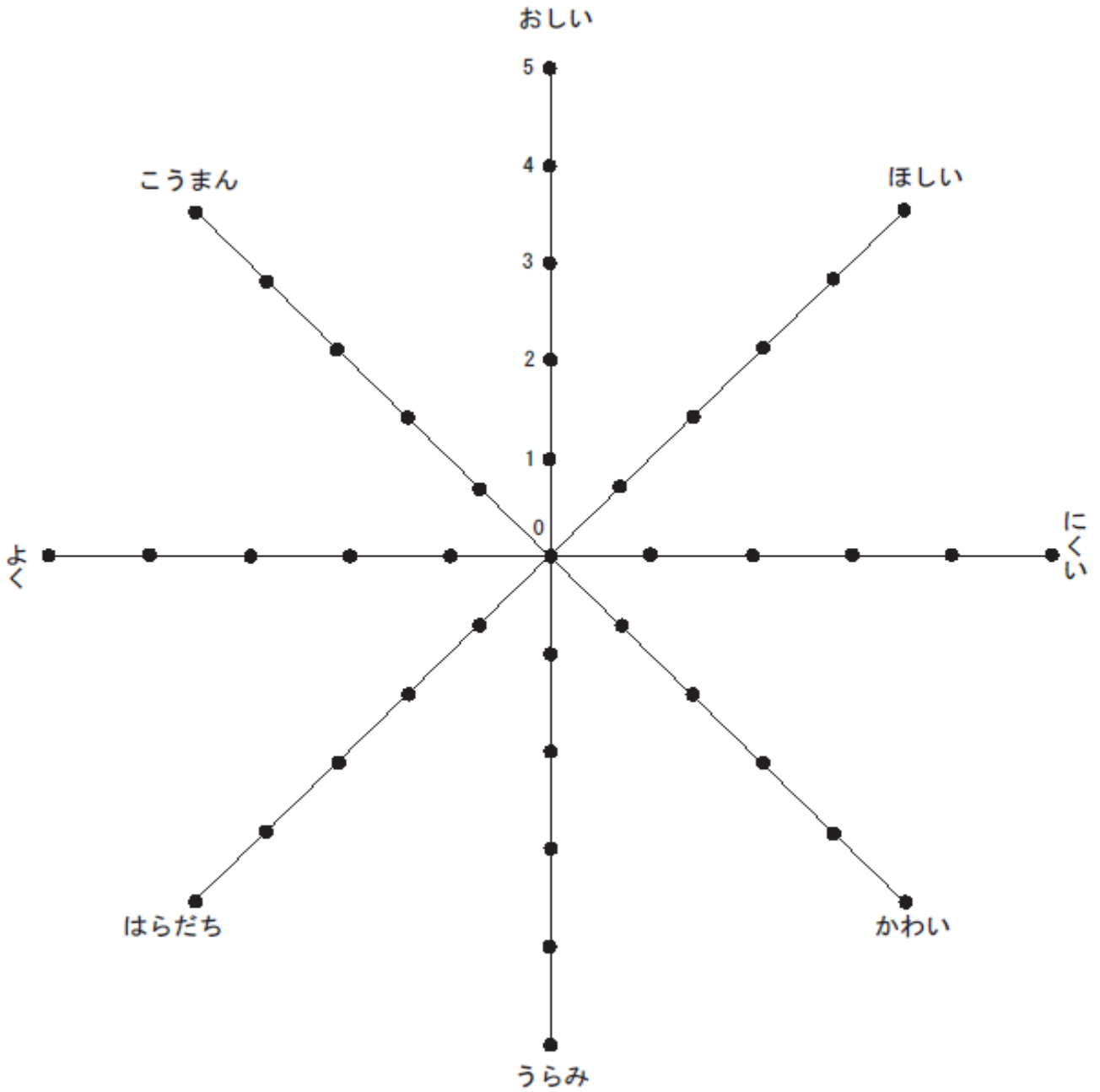
です。

その理由は

（ ）

だからです。

《テーマシート あなたの八つのほこり度》



《八つのほこり ふいかえりシート》

簡単に書いてみましょう！

1. 講座を受けて、今の気持ちはいかがですか？

2. 参考になることや気づいたことはありましたか？
それはどんなことですか？

3. 八つのほこりについて、あなたのイメージや考え方で変化はありましたか？
それはどんなことですか？

4. 胸の掃除について、これからのあなたの小さな（ちょっとした）目標を聞かせてください

逸話篇 一三〇 「小さな埃は」

明治十六年頃のこと。教祖から御命を頂いて、当時二十代の高井直吉は、お屋敷から南三里程の所へ、おたすけに出させて頂いた。身上悪いにっいてお諭しをしていると、先方は、「わしはな、未だかつて悪い事をした覚えはないのや。」と、剣もホロロに喰ってかかって来た。高井は、「私は、未だ、その事について、教祖に何も聞かせて頂いておりませんので、今直ぐ帰って、教祖にお伺いして参ります。」と言って、三里の道を走って帰って、教祖にお伺いした。すると、教祖は、

「それはな、どんな新建ちの家でもな、しかも、中に入らんように隙間に目張りしてあってもな、十日も二十日も掃除せなんたら、畳の上に字が書ける程の埃が積もるのやで。鏡にシミあるやろ。大きな埃やったら目につくよってに、掃除するやろ。小さな埃は、目につかんよってに、放つて置くやろ。その小さな埃が沁み込んで、鏡にシミが出来るのやで。その話をしておやり。」

と、仰せ下された。高井は、「有難うございました。」とお礼申し上げ、直ぐと三里の道のりを取って返して、先方の人に、「ただ今、こういうように聞かせて頂きました。」と、お取次ぎした。すると、先方は、「よく分かりました。悪い事言つて済まなんだ。」と、詫びを入れて、それから信心するようになり、身上の患いは、すっきりと御守護頂いた。